

平成 28 年度子どもの生活習慣づくり推進事業

子どもの生活習慣づくり全道研修会

開催レポート

平成 26 年度から 3 年間にわたり道内 128 市町村で実施した「子ども朝活」事業や、電子メディアのルールづくりなど、市町村の特色ある取組の成果を共有し、地域住民が主体となった取組の一層の充実を図ることを目指し、平成 28 年 1 2 月 21 日(水)、道民活動センターかでの 2・7 において、子どもの生活習慣づくり全道研修会を開催しました。

当日は、全道各地から学校や教育委員会の職員をはじめ、PTA、子ども朝活事業関係者、家庭教育・子育て支援関係者など 75 人が一堂に会し、講演や事例発表、各地域の取組の交流等とおして、地域に求められる役割や今後の取組の方向性について学びを深めました。

テーマ

地域みんなで

子どもの望ましい生活習慣の定着を支える 体制づくりを目指して



講演

「地域が主体となった子どもの望ましい生活習慣の確立に向けて」

講師：斎藤 哲瑯 氏（川村学園女子大学名誉教授・教育学博士）

豊かで便利になった現代社会において、子どもたちが自立して生きていくために、地域社会が果たすべき役割について講演いただきました。

○子どもの自立を支える親や地域の役割

- ・自分で何もしなくても済む豊かで便利な社会が、子どもの社会性や人間関係の希薄化などを生む要因の一つとなっている
- ・失敗を許さない「潔癖主義」や「完全主義」が、子どもの創造性、能動的な動きを封じることにつながっている
- ・自然体験、社会体験の不足などから、チャレンジ精神、忍耐力などが低下している
- ・他人とのふれ合いの不足などから、思いやり、協調性、コミュニケーション能力が低下している

○子どもたちを取り巻く主な課題や問題点

- ・自立心や社会性の欠如
- ・人間関係の複雑さ
- ・各種体験の不足 など

○地域社会との積極的なふれあいを通して、子どもの自己肯定感を引き出す

- ・限定された「3つの間」（空間、時間、仲間）を変え、地域の中で本物の体験をさせることが必要
- ・地域（自然）活動のメリット
 - * 地域活動は、成績や肩書に関係なく一人の人間として認めてもらえる場であり、限定された生活を離れて自分を生かせる場になる
 - * 年齢を超えて人々の生活や知恵、地域の文化などの本物に触れることによって、生きた学習ができる
 - * 活動のプロセスや成功体験が喜びにつながり、感性が刺激される
 - * 地域とつながりのある親は、子育て等の悩みが少なく、子どもも地域とつながりが強い傾向にある



事例発表①

「はこだて子どもセンター『子ども朝活』の実践」

発表者：菅原 康徳 氏（はこだて子どもセンター館長）

地域全体で子育てに取り組む機運の醸成を目指し、地域の人材や資源を活用した「子ども朝活」の実践を紹介いただきました。

○企画・実践のポイント

- ・地元の料理店、団体、専門家、市場、商店の方々の協力により親子食育教室（朝食づくり体験）を実施し、子どもや保護者の食に対する関心を高めた
- ・日替わりでパステル教室、折り紙教室、手品教室などを実施し、子どもたちの事業への関心を高めるとともに地域の方々の連携を促進した

○成果等

- ・地域の方々の協力により、地域全体で子育てを行う機運を高めることができた
- ・大人と子どもの交流のほか、大人同士のつながりを促進することができた



事例発表②

「生活習慣を自分で改善！『栗山町スポーツ朝活』の実践」

発表者：尾形 行亮 氏（栗山町教育委員会社会教育グループ主査）

子どもたちの電子メディアの長時間使用、体育以外の運動時間の短さなどの子どもの生活習慣上の課題の解決を目指した「栗山町スポーツ朝活」の実践を紹介いただきました。

○企画・実践のポイント

- ・子ども自身が運動、遊び、栄養、休息のバランスを自分でコントロールできる「24時間のグッドデザイナー」になること
- ・6月及び10月に通学合宿、12月に「子ども朝活」事業を実施
- ・NPO、少年団本部、企業、大学等と連携し、地域の教育力を高める

○成果等

- ・事業前後で、子どもたちに自分で考え行動しようとする意識の向上が見られた
- ・事業を通して地域の団体同士の連携を促進することができた



事例発表③

「子ども教育委員会による『アウトメディア宣言』の実践」

発表者：小田島美雪 氏（厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ主査）
横山 守 氏（厚真町教育委員会生涯学習アドバイザー）

ネット利用も含めた子どもの生活習慣の定着を目指し、教育委員会、小中学校、PTAが連携し、平成27年度から取り組みを進めている「厚真町児童生徒『学習・生活・運動習慣』向上運動」の実践を紹介いただきました。

○町の基本ルール（4つの柱）

- ・早寝早起き、運動、家庭学習、読書、電子メディアに触れる時間や利用のルールなど、4つの柱を設定し、家庭におけるルールの確立を目指した運動を展開

○厚真町「子ども教育委員会」の活動

- ・町内小・中学校の児童会・生徒会が中心となって平成28年度に「アウトメディア宣言」を採択し、町民・保護者へ発信

○成果等

- ・家庭におけるルールづくりの拡大、児童会・生徒会の課題意識の高まりが見られた



情報交流

「子どもの生活習慣づくりを支えるために」

道内各地で行われている子どもの生活習慣づくりに向けた取組の交流を通して、今後の地域活動の方向性についてアイディアを出し合いました。

【グループでの話し合い】

- ・子どもが様々な体験や地域の方々とのふれ合いを経験しながら育っていくことの大切さを再確認できた
- ・地域の団体同士がそれぞれの取組を理解する場づくりが連携の第一歩となる
- ・親子プログラムなどを通して、保護者の意識を変えていくことが必要
- ・ネット利用のルールを子どもたち自らが作成することは有効だと思いました



感想等

- ・本日の講演や各市町村の事例から学んだことを、今後、地域に還元していきたい
- ・子どもの将来のために、家庭や地域と連携した取組を続けていく必要性を実感した
- ・各市町村の事例や取組を聞いて、地域の組織力を向上させることなど、自分のまちの何から変えていかなければならないかについて気付くことができた
- ・地域活動を楽しみと思える人を増やし、つないでいきたい

北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課社会教育・読書推進グループ（担当：清水）

〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目 TEL：011-231-4111（内線35-522） FAX：011-232-2236

E-mail kyouiku.seigaku2@pref.hokkaido.lg.jp